

茶・華道発展の基礎を固めた人
住 進

住 齊

祖父（進）は、明治から昭和にかけて飛騨における茶・華道の基礎を固め、その発展に尽し、門弟三千人と言われた人です。

祖父は明治六年に吉城郡八日町の農家谷口周助の長男として生まれました。母がすぐ亡くなり、周助の後妻に子が生まれ、母の実家（同じく八日町の農家住）には子がなかったため、三歳のとき住の家に引き取られました。

祖父は体が弱かつたけれど意強固で、独学で斐太中学二年への編入試験に合格しました。しかし重い眼病に罹り、左眼を失明したため、中退せざるを得なくなりました。そ



住 進(昭和16年頃)

れでもめげず、明治二十六年、獨学で小学校本科正教員の免許を得ました。科目は、修身、教育、国語、算術、地理、歴史、習字と体操です。それにより、より京都において教員として自活しつつ、正統の茶・華道を習得しようとしたのです。実際祖父は、明治三十一年、山町の男子および女子尋常小学校の訓導を務め、大正十四年まで三十二年間に及びました（勲八等瑞宝章挙受）。

祖父が正教員の免許取得にこだわったのは自分の使命を経済的に支えるためでした。

その使命とは、養父の住作助（私の曾祖父で、『飛騨人物事典』頁百三十三）の影響によるものです。養父は高山の画家垣内雲嶽に師事し、京都画壇四条派の日本画を能くしました。茶道も深く研修、京都の表千家長生庵堀之内宗晋の門弟でした。明治二十年代

飛騨に戻ると、早速に活動を始めるべく、明治三十三年に高山町に移住し高山男子尋常小学校（煥章学校）の訓導に就き、翌々年に三之町四丁目（現在の下三之町で十六銀行下隣り）に居を構え、明治三十四年に池坊華道斐太松風会を起こしました。同年、飛騨国生花脇会頭、明治四十四年に同会頭に就任しました。大正四年と昭和三年の天皇即位式には飛騨びとによる立花の写真を収録した百華帳を献上しました。昭和十六年に池坊華道会斐太支部を結成し支部長となりました。池坊からは大正四年に大日本総目代、同十三年に大日本總華督、昭和二十三年に准華老に補せら

れた。また、茶道においては、表千家家元不審庵宗左より種々の点前（茶通箱、唐物、台天目、盆点、乱飾など）の相伝を許され、飛騨に広めると共に、昭和二十四年の桜山八幡宮における大献茶会などを主催したことにも熱心で、そのため大正四年から昭和二十二年まで高山高等女学校の教師



市内下三之町の自宅で(昭和35年頃)

となりました。長いあご髭に敬愛されたことが、現在でも飛騨中の年配者に記憶されています。

雅号は翠雨軒柳村、柳翁、篆刻、漢詩と謡曲も能くしました。

〔追記〕

高山市文化協会より文化功労者顕彰。昭和三十七年に亡くなると池坊が華老を遺贈。